

紀尾井だより

5/6 May / June 2023 [Vol.159]

挑戦者にして伝統の継承者

リチャード・トネッティ

新 紀尾井素踊りの会 第四回

西川 箕乃助

連載

歌舞伎をめぐる

音楽のことごと 第一回

歌舞伎と長唄

クラシック音楽のテーマに基づく3つの話

ピアノ協奏曲をめぐる3話



© Nic Walker



挑戦者にして伝統の継承者

リチャード・トネッティ

世界最高峰のオーケストラのひとつだと筆者が確信する団体、オーストラリア室内管弦楽団(ACO)は、チェロを除く全員立奏で、曲ごとに立つ位置も変えて、自由奔放に演奏するスタイルを早くから実践してきたことでも知られる。

アンサンブルを磨き上げ、牽引してきたのが1990年から芸術監督をつとめているヴァイオリニスト・指揮者のリチャード・トネッティ(1965年キャンベラ生まれ)である。

その彼が、7月に紀尾井ホール室内管弦楽団(KCO)を指揮するために(そしてヴァイオリンも)、10月には手勢ACOを引っ提げて紀尾井ホールにやってくる。

みずみずしい響きと 驚きに満ちた演奏

2018年の秋に、彼らのコンサートを聴くためにシドニーに出かけたときのこと。は今も忘れられない。そこで聴いたのは、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲と交響曲第5番だったが、弦は全員ガット弦、管楽器や打楽器も古楽器を使い、ピッチもA

430と19世紀初頭の演奏様式を意識していた。ACOの完全雇用メンバーは弦楽器だけで、楽曲の編成に応じて世界各地の管楽器奏者と契約するのだが、2018年シドニーで用いられた古楽器はわざわざヨーロッパから取り寄せたとも聞いた。そうした周到な準備の末にトネッティの統率のもと演奏されたのは、気迫のこもった、みずみずしい響きと驚きに満ちた、素晴らしいベートーヴェンであった。

ヴァイオリン協奏曲の第1楽章で、ト

ネッティが演奏していたカデンツァも独特で、過去のさまざまなカデンツァからの合成を含む、ティンパニも参加する巨大なスケールを持つものだった。この自由な即興

はどれほど遠くまで飛ばしたのか、と思わせておいて、最後は元の場所に着地する。それは息を呑むような瞬間だった。第1楽章が終わった後に思わず会場から拍手が沸き起こったほどである。

演奏者の一人であるという 本能的な姿勢

トネッティの指揮は極めてユニークなものだ。普通にタクトを振るときもあるが、ヴァイオリンを持ったまま弓で指揮し、状況に応じて第1ヴァイオリンにしばしば加勢する。指揮者だけがその他大勢を統率するというのではなく、演奏者の一人であるという姿勢を本能的に保持している感じ



© Nic Walker

だ。そうして作り出されるアンサンブルは、指揮者を含めて全員が同じように音楽に對して平等に責任を持つという雰囲気になる。

トネッティは、筆者からの取材に応じて、自身の音楽的姿勢について次のように述べてくれた。「早い段階から、いわゆる古楽の革命的な精神を受け入れてきました。私は

常にアンナー・ビルスマやニコラウス・アーノンクルのような先駆者に勇気を与えられ、ヘルベルト・フォン・カラヤンや大きなオーケストラの支配する既存のクラシック音楽に挑んできました」。ここでトネッティがはつきりと、カラヤンや大編成のオーケストラが支配する既存のクラシック音楽に挑戦してきたと明言したことの意味は大きい。

そもそも室内管弦楽団とは何だろうか？大編成ではないちよつと小ぶりのオーケストラというだけであるはずがなく、既存のオーケストラに對するアンチテーゼを打ち出しているのではないか。

トネッティのこの姿勢は、ACOのレパートリーにも表れている。J.S.バッハのみならずコレツリやC.P.E.バッハなどを含む多様なバロック音楽から、古典派やロマン派の名作だけでなく、室内楽の編曲版も多い。近現代のレパートリーもアルヴォ・ペルトやジョン・アダムズ、さらにはピンク・フロイドやマイルス・デイヴィイス、さらにはダンサーや映像とのコラボレーションに至るまで、広大なものである。ACOは古楽器と電子楽器をハイブリッドに操ることのできる稀有な団体でもある。

伝統との強いつながり

トネッティは単に革新というだけでなく伝統との強いつながりも持っている。彼のルーツを探ると、そこには少年時代に師事した、英国出身の名ヴァイオラ奏者ウィリアム・プリムローズ(1904-82)の名前

がある。

プリムローズはかつて大指揮者アルトゥーロ・トスカニーニのもと、NBC交響楽団の首席ヴァイオラ奏者をつとめていた人物でもある。そのプリムローズからトネッティが学んだのは、「柔らかいポルタメント、つまりひとつの音から次の音へと移る技法の美しさ、独特に揺れるヴィブラート」なのだという。つまりトネッティとACOの中にはトスカニーニとNBC交響楽団のDNAが継承されているともいえる。

さらに、トネッティと日本とのつながりは深い。トネッティはプリムローズの日本人の妻であるヒロコ・プリムローズにも師事している。プリムローズ夫妻は、オーストラリアの弦楽器教育に初めてスズキ・メ



© Stephen Ward

リチャード・トネッティ

紀尾井ホール室内管弦楽団 第135回定期演奏会

【出演者】
リチャード・トネッティ
(指揮&ヴァイオリン)

7/14
金
19:00

7/15
土
14:00

【曲目】

キラル : オラヴァ
ハイドン : 交響曲第104番二長調 Hob.I:104《ロンドン》
武満徹 : ノスタルジア
モーツァルト : 交響曲第41番八長調 K.551《ジュピター》

後援:オーストラリア大使館

リチャード・トネッティ & オーストラリア室内管弦楽団

【出演者】
オーストラリア室内管弦楽団
リチャード・トネッティ(リードヴァイオリン)

10/10
火
19:00

【曲目】

ヤナーチェク : 弦楽四重奏曲第1番ホ短調
《クロイツェル・ソナタ》
ハース : 弦楽四重奏曲第2番 op.7
ベートーヴェン : ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調 op.47
《クロイツェル》
(全てトネッティ編 弦楽オーケストラ版)

(音楽ジャーナリスト・評論家)

文/林田直樹

ソッドを取り入れたことでも知られる。また、これまで毎年トネッティは、北海道ニセコ町をメンバーと訪れ、同町のホテルなどでミニコンサートを行い、当地の人々と親交を温めてきた。

いわば根っからの日本びいきともいえるトネッティにとって、紀尾井ホール室内管弦楽団との共演、そしてACOの東京公演は、コロナ禍でのキャンセルを経た後だけに、いっそう心に期するものがあるに違いない。

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

新紀尾井素踊りの会

第四回

西川箕乃助

にしかわみ のすけ

すっかり紀尾井ホールの代表的なシリーズ公演となった「新紀尾井素踊りの会」。第4回は西川箕乃助さんのご登場です。日本舞踊の魅力についてお話しただきました。

——西川流の踊りの特徴とはどのようなものでしょうか。

歌舞伎の「所作事(歌舞伎舞踊)」を原点として、日本舞踊の流派の中では最も古いとされています。西川流は「基本に忠実」にして「古風」、そして「おおらか」です。音の間合いが大きく、他の流派と比較して振りの数も少ないですね。父(現家元・十代目西川扇藏)からは常々「『うまい踊り』より『いい踊り』をめざしなさい



い」といわれています。

——箕乃助さんが思う「素踊り」の魅力とは

素踊りの「素」とは「特別な扮装を纏わない」という意味です。男性の場合、「衣裳付」の踊りと違い紋付と袴だけで踊ります。素踊りの真骨頂は、あたかも衣裳を身に着けて踊っているようにお客様に感じていただくことです。だからこそ実際に衣裳を着けて踊り、感覚を体に蓄えておくことが重要で、「衣裳付」で踊っていないければ「素踊り」は踊れないと思います。

——今回ご披露される演目について、箕乃助さんご自身の目線から見た、特徴や面白さなどをお聞かせください。

『玉屋』は江戸時代のシャボン玉売りの姿を描いたものです。通常は衣裳付で踊られることが多いこの踊りを今回は素踊りでご覧いただきます。まるでここにシャボン玉が浮かんでいるような情景をご覧に入りたいですね。

次にお見せする『ちよんがれ一休』は「一休さん」こと二休禅師の洒落た生き様を描いたもので、普段あまり西川流では使われない地歌にのせて、素踊りでは珍しく着流しを纏って踊ります。花柳茂香先生(日本舞踊家・故人)が私のために振りをつけてく



「ちよんがれ一休」

れたもので、軽妙洒落な踊りを作ってくださいました。私にとって大切な作品です。斜に構えて軽妙洒脱に生きた一休の姿の面白さを感じていただければと思います。

——これまでも日本舞踊家としてさまざまな分野で活動されていますが、日本舞踊の持つ「力」や「可能性」をどのように見ておられますか。

これまでも洋楽で踊ってみたり、洋装で踊ってみたり色々な試みをしています。日本の伝統文化を大切に尊重した上で成り立っているものでないと、どんどん違うものに変容してしまいますね。どういう風に日本古来の文化を若い人たちにわかってもらえるかを日々考えています。その取り組みの一つとして、大河ドラマをはじめとする時代劇の所作指導などにも関わり、理にかなった素晴らしさを伝えていきます。

——今回の公演で初めて日本舞踊をご覧になる方もいるかと思えます。日本舞踊の魅力とは何でしょうか。

踊りというのは肉体表現と地方(演奏)のマッチングなわけです。ですから、メロディーなどが身体の動きとどう風をリンクしているかなど、そのあたりを総体的に感じていただければ嬉しいと思います。

〈お話を聞き終えて〉
若いころは素踊りを踊っても「形にならない」という思いを持っていた箕乃助さん。しかし年を重ねることで「素踊りの居心地」というのか、『あ、こういう感じがいいのか』と感じる「境地にたどり着いている」そうです。

積み重ねた稽古で磨き抜かれた珠玉のそして円熟の踊りを、ご自身が「コンパクトな”和”の空間」と評する初夏の紀尾井小ホールで、ぜひご堪能ください。

聞き手：執筆／ムトウタロー
(文芸コラムニスト)

新紀尾井素踊りの会 第四回 西川箕乃助

【出演者】
立 方：西川箕乃助
浄 瑠 璃：清元清榮太夫、清元清美太夫、清元成美太夫
三 味 線：清元栄吉、清元美十郎
上 調 子：清元美一郎
囃 子：堅田新十郎社中
唄・三 絃：富山清琴
お 話：渡辺保
【演目】
清元「玉屋」
素踊りの魅力(お話)
地歌「ちよんがれ一休」
素踊りを語る(お話)

6/17
土
14:00

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

歌舞伎をめぐる

音楽のこころ

第一回

歌舞伎と長唄

永遠のスタンダード

「京鹿子娘道成寺」

上手から儂げに現れた女方が、江戸の町娘のなりでしつとりと踊りはじめる。舞台の正面、緋色の毛氈の敷かれた雛壇に並んだ唄、三味線、お囃子の演奏家たちはお揃いの桜をあしらった肩衣をつけている。長唄が、誰に見しよとて紅鉄漿つきよぞ、みんな主への心中立しとて歌う。「京鹿子娘道成寺」の「クドキ」。あなたに見てもらいたくってお化粧をするのよ、あなたへの想いの証し……女心の告白であり、男に夢中になっている胸の内がアンダンテ、ときにアダージョで切々と綴られてゆく。

この古典のなかの古典が江戸で初代中村富十郎によつてはじめて踊られたのは宝暦3年（1753）のことで、その前にもいくつかの「娘道成寺」があり、その後は男の役（芝居では立役という）が踊る、あるいは男女で踊る、「道成寺」のヴァリエーションもできた。それでも芝居で「道

成寺」といえば、まず長唄の「京鹿子娘道成寺」が永遠のスタンダードである。

歌舞伎の主人公はある時期までは圧倒的に立役だった。封建社会のドラマだから当然のことだったが、女方はいつとも一歩ひいたり陰に寄り添ったりで「芯」になる舞台がない。さすがに気持ちが発散しなかつた。それで綺麗な女方にもつぱら舞踊を受け持たせるようになった。興行人の知恵である。だから歌舞伎舞踊は1780年くらいまでは女方の専売特許だった。

長唄の起源

その長唄はいつ頃できたのだろう。今日「長唄」（江戸の長唄）と呼ばれる三味線音楽は、経済と町人文化が大きな花を咲かせた元禄（1688）の頃に始まったといわれる。天下泰平の元禄の御代にいちばん人気があった俳優は江戸では初代の市川團十郎だった。團十郎は「荒事」という勇壮で稚気のあるダイナミックな演技を創造し、後に歌舞伎十八番となつていまも上演される「暫」などを演じた。荒事は江戸のスーパーマンが悪人退治をする大活



「京鹿子娘道成寺」[江戸長唄]
国立国会図書館デジタルコレクション

劇で、見物は團十郎を見て溜飲をさげた。その伴奏音楽は勇壮な「大薩摩」だった。後に長唄に吸収された。いまも大薩摩は長唄の演奏家が舞台で演奏する。

日本に三味線が入ってきたのは四百数十年前のことで琉球王国から伝わった三味線を模したのが始まりだが、江戸では石村近江という上方から出た名人が1600年代前期にいまの三味線のもとになるものをこしらえた。高輪の魚籃坂にある大信寺に二代目近江の碑が立っていて、「江戸における三味線製作の始祖」と刻まれている。勇壮なものから可憐で繊細なものまであらゆる楽曲があるが、長唄の三味線は細棒で音域も高いのでひとこと言えば「長唄」は曲調が明るく華やかである。アンサンブルとソロのヴァリエーションも豊富で、ジャズでいうならスイング時代のベニー・グッドマン楽団のような音楽。だから景気よかった江戸の街でおおいに流行った。大恐慌のあとにスイング・ビッグバンドの黄金時代が来たようなものだ。

長唄の構成

歌舞伎舞踊の音楽としてスタートした長唄にはフォルムがあり、踊り手が登場する「オキ」、花道などで踊る「出端」、気持ちよく踊る「クドキ」（立役ならば勇壮な「物語」）、リズムカルな「踊り地」、フィナーレを飾る「チラシ」。交響曲における楽章みたいなものだ。唄や三味線の聴きど



長唄「春興鏡獅子」2018. 5.28. 紀尾井小ホール

ころは作品ごとにたくさんあるので、ぜひ聴いてほしい。一例として「藤娘」「鷺娘」「娘道成寺」「越後獅子」「二人桝久」「鏡獅子」「勧進帳」惚れ惚れする名曲たち。

文／岡崎 哲也（松竹株式会社
常務取締役、東京交響楽団理事長）

ピアノ協奏曲を めぐる 3話

ピアノという楽器が時代ごとにドラマティックな変遷を辿ると同時に、ピアノ協奏曲の歴史も大変興味深いです。そんな中から3つお話を考えてみました。

1 「一人前」の証し

18世紀や19世紀は現代のシンガーソングライターのように、作曲家自身が演奏家も担って、自作自演を繰り返していた時代でした。モーツァルトが予約演奏会という自主公演をはじめとして自作のピアノ協奏曲を次々と発表していったように、一人前のピアニストにとって自分のピアノ協奏曲や協奏的な作品を演奏することは大変重要でした。19歳のショパンも《ラ・チ・ダレム変奏曲 op.2》でウィーンデビューを飾った後、《ピアノ協奏曲第2番 op.21》でプロの演奏家としてワルシャワでの正式な楽壇デビューを行っています。同時期に同じ年のシューマンもいくつものピアノ協奏曲の作曲に精を出していました。それらは未完に終わりましたが、手を故障する



ショパンのピアノ演奏 (絵画)

前に若きシューマンがピアニストとして「一人前」になるために熱心だったことが窺えます。

2 「室内楽の延長としての 「ピアノ協奏曲」

スペインの作曲家ホセ・パロミノの「Concerto ossia quinteto per cembalo o fortepiano (チェンバロまたはピアノのための協奏曲、または五重奏曲)」（1785年）は「協奏曲」ですが、ピアノ五重奏曲として書かれている作品で、18世紀において「ピアノ協奏曲」というものが室内楽的なものであったことを示す大きな例です。今日では古典派の協奏曲も大型のオーケストラと共に巨大なホールで頻繁に演奏されていますが、それは現代の楽器および

演奏会のあり方に適応したスタイルであった、作品の本来の姿とはかけ離れていることを忘れてはなりません。

フォルテピアノ奏者アルテュール・スホーデルヴルトが自ら結成したEnsemble Crisoforiとベートーヴェンのピアノ協奏曲全集をα（アルファ）からリリースしており、その録音では弦楽五重奏と管打楽器という編成で当時のピアノを用いて演奏しています。人数の少ないアンサンブルですが《皇帝》をはじめとした協奏曲のエネルギーとパッションに何と圧倒されることでしょうか。

弦楽器の人数が多かったとしても、19世紀の前半頃までトゥッティを除いたピアノ独奏部では弦楽はパートごとに1人ずつになることもあったという説もあります。ショパンやモーツァルトは協奏曲の「室内楽版」の楽譜も残していますが、特に19世紀後半以降にピアノの音量増幅に伴ってオーケストラの規模も拡大されるまで、協奏曲を室内楽の延長線上と捉えてもしくくりくるものがあります。

3 カデンツァは 「演奏者自身」の見せ場

ロマン派以降のピアノ協奏曲においてカデンツァは作曲家が作品の一部として入念に書き上げているものがほとんどです。しかし古典派以前の協奏曲のカデンツァでは、演奏者の自作が演奏されることはウエ

ルカムで自由なものでした。作曲家が書き残してくれたものもありますが、それらは自作を書けない、あるいは即興的に弾けない人のためのものと言ってもいいぐらいです。ですから少なくとも古典派以前のカデンツァは演奏者が自作を弾くのが本来理想的かもしれません。

しかし偉大な作曲家たちが自ら書いたものはもちろん、ブラームスによるパッサカの協奏曲のカデンツァ、フォーレやサン＝サーンスによるベートーヴェンの協奏曲のカデンツァのような、時代を超えた作曲家同士の面白いカップリングなど、カデンツァには自作だけでなく楽しい選択肢が沢山あります。自由性が高い作品において、ソリストがどんなカデンツァを演奏会に用意してくるか注目してみるのも面白いかもしれません。

文／川口成彦
(フォルテピアノ奏者・ピアニスト)

紀尾井レジデント・シリーズ II 川口成彦 (第2回)

協奏曲の宴～withブロードウッド (1800年頃)

[共演]
La Musica Collanaメンバー
丸山韶(ヴァイオリン)
廣海史帆(ヴァイオリン) 佐々木梨花(ヴィオラ)
島根朋史(チェロ) 諸岡典経(コントラバス)
[曲目]
ファリャ : ドビュッシーの墓のための讃歌(1920)
セイシャス : 協奏曲イ長調(18世紀前半)
シュナイダー : ニューオーリンズのモーツァルト
モーツァルト : ピアノ協奏曲第11番ヘ長調 K.413 ほか

7/7
金
19:00

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

第33回 日本製鉄音楽賞 贈呈式

本誌前号でお伝えしました第33回日本製鉄音楽賞の受賞者ピアニストの務川慧悟さん(フレッシュアーティスト賞)とピアノ・プロデューサー/ピアノ技術者の高木裕さん(特別賞)をお迎えし、贈呈式を行いました。本年7月に紀尾井ホールにて受賞記念コンサートを開催予定です。



メッセージ

フレッシュアーティスト賞 務川 慧悟 [ピアノ]

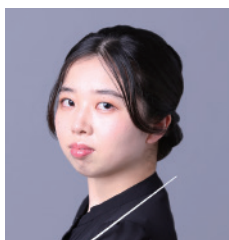
この賞は中学生のころから存じ上げており、横山幸雄先生はじめ、よく知る演奏家の方々が受賞されてきた賞をいただけることになるとは、想像もできませんでした。現在はヨーロッパと日本を半分くらいの割合で活動していますが、しばらくは今のよう形で活動し、ヨーロッパで学んだことを日本にお届けしたいです。

特別賞 高木 裕 [ピアノ・プロデューサー、ピアノ技術者]

受賞の知らせを頂き、まずは驚きました。裏方の私をこのように表に出して頂きとても光栄に思います。かつての巨匠時代とは違い、ステージにある共有のピアノのできる限りの演奏をする戦後のモダンクラシック音楽に対し、作曲した時代に近いピリオド楽器を持ち込んでのコンサートを可能にしたことで、ピアニストが選択の幅を広げられる理想のステージを提供しています。

日本製鉄文化財団 若手指揮者育成支援制度 2023年度合格者のお知らせ

日本製鉄文化財団では「若手指揮者育成支援制度」として、将来有望な若手指揮者の育成と活動の支援を行っています。この度2023年度合格者が決定しましたのでお知らせします。今期は吉崎理乃と高木玲音の2名が、1年間紀尾井ホール室内管弦樂團のもとで研修をいたします。将来のマエストロへ応援をよろしく願っています。



吉崎理乃



高木玲音

インターネットでのお買いものはちょっと苦手 ……どうしたらいい?

日本製鉄文化財団 主催公演チケットTIP①

当財団・主催公演のチケットは、紀尾井ホールウェブチケット(インターネット)でのご購入のほか、コンビニ店頭でもお求めいただけます。コンビニ店頭のマルチコピー機で公演日、公演名(公演コード)、席種、希望席数を選んでいくだけで簡単に予約できます*。お支払いとチケットの発券まですぐそばのレジで一気完了! クラシック公演はセブン-イレブン(ぴあ)とファミリーマート(イープラス)、邦楽公演はセブン-イレブン(ぴあ)で取扱っています。ぜひご利用ください。



* 席座選択はできません。各販売者の割当てエリアからの自動配席となります。

TIPのコーナーでは当財団主催公演チケットの「購入手続き中でのヒント(Tips in Purchase)」をご紹介します。

今号の表紙

『シンバルとカーネーション』

[協力] 花/レ・ミルフォイユ・ドゥ・リベルテ 紀尾井町店 シンバル/岡崎壽範

シュトラウス親子のワルツやポルカに欠かせないシンバル。リズムを刻んだり、曲が盛り上がり最高潮に達するときに活躍する楽器です。今年1月のKCO名曲スペシャル ニューイヤー・コンサート2023でも大いに活躍しました。今号は、赤のカーネーションとのコラ

ボレーション。「深い愛」を花言葉に持ち、母の日に贈られる定番の色ということもあって母親や女性の愛情を表す花言葉もあるようです。元気いっぱい活躍する息子/彼とそれを優しく見守る母/彼女を表す組み合わせとも言えるかもしれません。

紀尾井ホールにご支援いただいている企業および個人の方々です

紀尾井サポートシステム会員 (五十音順・株式会社等表記及び敬称略)

《特別協賛会員》日鉄ソリューションズ/三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所
 《みやび会員》伊藤忠商事/大島造船所/商船三井/菅原/住友商事/日本郵船/丸紅/三井住友銀行
 三井不動産/三井物産/三菱商事/三菱地所/メタルワン ほかに匿名2社
 《ひびき会員》オカムラ/高砂熱学工業/竹中工務店/東京きらぼしフィナンシャルグループ/山下設計
 《みどり会員》青鬼運送/赤坂維新號/今治造船/ヴォートル/エーケーディ/NTTドコモ/荏原冷熱システム/
 鹿島建設/ザ・キャピトルホテル 東急/三協/清水建設/上智大学/西武リアルティソリューションズ/
 大成建設/千代田商事/テイスト・ライフ/東芝ライテック/永田音響設計/ニュー・オータニ/
 ハウス食品グループ本社/パナソニック/三井住友信託銀行/三菱UFJ銀行/三菱UFJ信託銀行/
 三菱UFJモルガン・スタンレー証券/ミュージジョン/明治座舞台/ヤマハサウンドシステム/ワークショップ21
 《あおい会員》青木陽介/浅見 恵/石崎智代/磯部治生/伊藤真理子/井上善雄/岩城宏斗司/
 馬屋原貴行/大内裕子/大垣尚司/大久保なほ子/太田清史/小川 保/小樽茂穂/糟谷敏秀/片山國正/
 片山能輔/加藤巻恵/加藤優一/神川典久/川口祥代/川島知恵/菊池恒雄/木谷 昭/楠野貞夫/
 久保祐子/栗山信子/河野紗妃/小坂部恵子/小西美由紀/斎藤善善/坂詰貴司/佐久間庸行/
 佐部いく子/潮崎通康/清水 正/清水多美子/清水康子/白土英明/末岡明武/鈴木順一/鈴木 亮/
 高下謙吾/武上由佳/田中 進/戸田純也/外山雄三/鳥居荘太/内藤美奈子/内藤基之/中塚一雄/
 中西達郎/中村健司/名取正夫/西村勉美/原田清朗/日原洋文/冬木寛義/北條哲也/堀川将史/
 牧本恵美子/松枝 力/松本美恵/丸井正樹/箕輪永世/宮島正次/宮武悦子/宮原 薫/宮本信幸/
 陸田 実/村上喜代次/村上敏子/持留宗一郎/八木一夫/八木晶子/矢田部靖子/山内寿実/横手 聡/
 渡邊一夫/渡辺弘次
 ほかに匿名43名 計235口 (2023年4月1日現在)

特別支援会員 (五十音順・株式会社等表記略)

アステック入江/五十鈴/NS建材薄板/NSユナイテッド海運/
 NSユナイテッド内航海運/エヌエスリース/エヌテック/王子製鉄/
 大阪製鐵/九築工業/草野産業/黒崎播磨/合同製鐵/
 鴻池運輸/小松シャリリング/山九/産業振興/三見金属工業/
 サンユウ/三洋海運/山陽特殊製鋼/ジオスター/新日本電工/
 スガテック/大同特殊鋼/大和製罐/高砂鐵工/高田工業所/
 鶴見鋼管/DNPエリオ/テツゲン/電機資材/東海鋼材工業/
 東邦シートフレーム/トピー工業/日亜鋼業/日鉄SGワイヤ/
 日鉄エンジニアリング/日鉄片倉鋼管/日鉄環境/
 日鉄ケミカル&マテリアル/日鉄建材/日鉄鋼管/日鉄鋳業/
 日鉄工材/日鉄鋼線/日鉄鋼板/日鉄興和不動産/日鉄スチール/
 日鉄ステンレス/日鉄ステンレス鋼管/日鉄精圧品/日鉄精鋼/
 日鉄精密加工/日鉄総研/日鉄ソリューションズ/日鉄テクノロジ/
 日鉄テックスエンジ/日鉄ドラム/日鉄物産/日鉄物流/
 日鉄物流君津/日鉄物流八幡/日鉄保険サービス/日鉄ポルテノ/
 日鉄溶接工業/日鉄レールウエイテクノス/日本金属/日本触媒/
 濱田重工/富士鉄鋼センター/不動テトラ/北海鋼機/
 幕張テクノガーデン/松菱金属工業/三島光産/宮崎精鋼/
 吉川工業/ワコースチール
 日本製鉄 (2023年4月1日現在)

フォトレポート ～ 主催公演お客様アンケート ～

2.3(金) 紀尾井レジデント・シリーズ I
 葵トリオ(第2回) Piano Trios surrounding Schumann

- 今まで聴いてきた葵トリオの公演の中で、1番よかった。
- 丁寧に曲をよく作り込んであるし、3人の歌う事への熱意と天性を感じ、仲の良さを感じられる素敵な演奏でした。
- 葵トリオは、いつ聞いても、ほんとうに素晴らしいです。紀尾井ホールの大きさも室内楽を聞くにはベストです。
- 小川さんのアグレッシブな演奏スタイルは元々大好きですし、ショパンとメントリ※で秋元さんのピアノも堪能でき、伊東さんはいつも安定の音色音程で素晴らしい演奏でした。

※メンデルスゾーンピアノ三重奏曲のこと



© 堀田力丸

2.10(金)・11(土・祝) 紀尾井ホール室内管弦楽団 第133回定期演奏会

- とてもスリリングなベートーヴェンでした。スタイリッシュな指揮姿、カッコよかったです！シューベルトの交響曲など聞いてみたいです。
- 数年前からパスカル氏のファンで、本日の公演も本当に素晴らしいかったです！KCOは初めて聴かせていただきましたが、全体のクオリティが非常に高く、またアルシュテット氏のチェロも感嘆致しました。
- アルシュテットさんのショスタコヴィチは圧巻でした。あのリズム感と寄り添うオケの素晴らしいさに感服しました。ホルンが素晴らしいかったです。ベートーヴェンの4番は形式美を見事に表現していたと思いました。ダイナミクスレンジが大きく、囁くような弱音が特に素晴らしいかったです。弦の対向配置がとても効果的でした。



© ヒダキトモコ

2.25(土) 邦楽 明日への扉 第2回 邦楽四重奏団(三曲)

- 古典から現代曲が取り混ぜられているばかりでなく、それぞれ表情の違う曲だったので、とても楽しめました。
- 四重奏がとても新鮮でしたし、曲がよかった。トークも楽しく、金屏風前の和装も、洋装も、趣が変わってよかった。紀尾井小ホールは初めてでしたが、コンパクトで演奏者を近くに感じられてよいホールだと思った。
- 「入陽」の演奏は初めて聴いたのですが、私自身邦楽の新たな世界が開かれた気がします。まだまだ大きな可能性があるのだなど、邦楽の魅力を変えて感じることができました。



© 堀田力丸

3.3(金) 三菱地所 presents
 紀尾井 明日への扉 第34回 香月麗(チェロ)

協賛：三菱地所株式会社

- バラエティーに富んだプログラムを素晴らしい演奏で魅了させていただきました。音楽に対していつも真摯に取り組まれている姿が見えるようだった。
- チェロの力をまざまざと伝えてくれたのですっかりファンになりました。
- フレッシュかつ美しいチェロの響きを堪能しました。私はアマチュアのチェロ弾きですが、香月さんのような柔らかく、しなやかに弾けたらいいなあと思いつつ聴いていました。特にメンデルスゾーンが香月さんのカラーにピッタリだと思いました。



© 堀田力丸

公式 SNS で最新情報配信中



紀尾井ホール

チケットのお申込み



紀尾井ホールウェブチケット <https://kioihall.jp/tickets>

公益財団法人 日本製鉄文化財団

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町6番5号 TEL.03-5276-4500(代表) FAX.03-5276-4527 <https://kioihall.jp>

